Teku-Teku
伝
SPIRIT

峡南印章業組合資料と印材「水晶」
（印章資料館蔵）

六郷に印章産業が根付いているわけ。

そこには、優れた技と足袋の行商で築いた力があった。

印章は、紀元前４０００年、メソポタミアで生まれ、シルクロードによって中国へ渡り、その後、日本へ。１００年余りの歴史を持ち、生産高、技術とも日本一を誇る、六郷の印章産業。その歴史を六郷印章業連合組合の組合長、望月孝さんが語ります。

「水晶産出から始まった 六郷の印章産業」

「山梨には古くから水晶の丸玉や細工物などの加工や彫刻を行う優れた技を持つ職人がいたことや、江戸時代から数多くの著名な篆刻家を輩出していた歴史があります。そして、そのような風土、文化の中で修業を積み、卓越した技を備えた篆刻家たちが代々、六郷において技を引き継いでいったのです。明治に入り、国の方策として殖産興業に力が注がれるようになると、山梨でも水晶鉱山が開放され、民間にも採掘許可が下りました。また、水晶の研磨などを行う加工施設も設けられました。水晶加工業全体が発展していく時代の中で、水晶印も一層の脚光を浴びるようになりました」

「庶民も「はんこ」を使う時代に」

「明治６（１８７３）年10月1日、太政官布告により印鑑登録の制度が定められました。これにより、一般庶民も姓を持ち自身の姓が彫られた実印を持つことを許されました。このように、はんこを必要とする社会制度ができたことで、普及が進んでいったのです。

余談ですが、印鑑、印章の違いをご存知ですか？ 本来、印鑑とは、はんこを押した印影のことで、名前が彫られているはんこを正しくは印章といいます。近年は印章よりなじみのある印鑑を、はんこの意味として使う人が増えてきましたね」

「足袋の行商の販路を活用し 印章産業を発展させた人々の熱意」

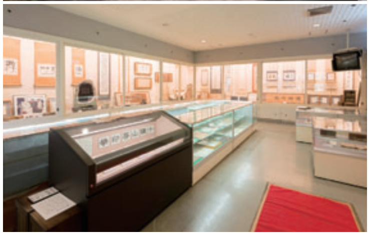
「江戸時代、六郷の農家では、副業として足袋を製造し、全国に売り歩いていました。明治に入り足袋産業が衰退し、印章産業が台頭すると、足袋の行商で築いた販路が生かされ、六郷のはんこは一気に全国に広がっていったのです。印鑑登録の制度が定められてから、はんこは日本の社会制度の中で重要な役割を担ってきました。自己を証明する手段として、はんこが持つ重要性は時代が変わった今でも同じです。明治の頃には、村長など地位の高い人がはんこの行商に行ったそうです。そこには、きちんとしたところから、しっかりしたものを買おうという買い手の思いがあり、それだけ売る側にも責任がありました。

大正から昭和にかけて、販路は海外にも広がり、アジア諸国まで水晶印を中心とした外交が行われていました。その後、通信販売の仕組みが確立されると、六郷の印章は地場産業として根付いていったのです」

印章文化を守り続ける「日本一のはんこの里」であるために

「六郷は、はんこを彫る製造業、印章ケースを作る工場、卸業、通信販売会社など、はんこに関わる業種が全て集まっているという特徴を持っています。ただ、手彫り職人は現在50名ほどしかいませんので、六郷印章業連合組合が中心となり後継者育成に取り組んでいるところです。また、連合組合では、水晶、象牙、牛角、黒水牛、ツゲ、ラクトなどに加え、周辺の山で採れる『オノオレカンバ』という木を、連合組合のシンボルとして印材に取り入れました。この木は、おのが折れるといわれるほど堅く、独特な赤みを帯びた風合いや手触り、朱肉ののりの良さを備えています」

「日本の文化から、はんこがなくなることはありません。ですから、後継者となる方々の技術を磨く機会を設けたり、新たなものや伝統から学ぶ粋なものを追い求めたりしながら、『日本一のはんこの里』として印章文化を継承していきたいと思っています」



印章資料館（市川三郷町商工会六郷支所内）

貴重な資料を通して、先人たちの印章にまつわる足跡を知り、そこに宿る思いを感じ取ることができる。
館内には、明治時代からの印章彫刻に使用した道具類や印材、販売に関する書類やカタログなどを展示。小中学生の篆刻体験教室や、大人向けの体験教室（要予約）も行っている。

住　　所／市川三郷町岩間2160
T　E　L／0556-32-2159
開館時間／平　日　9:00〜16:00
　　　　　土日祝 10:00〜15:00
休 館 日／12月〜3月に休館日あり
　　　　　お問い合わせください。
入 館 料／無料

六郷印章業連合組合　検索

六郷印章業連合組合
組合長　望月　孝さん

十鐘山房印挙（じっしょうさんぼういんきょ）

中国清朝時代の歴史家・陳 介祺（ちん かいき）が収集した古代中国の銅印の印譜集。印譜集は1853年にそれぞれ異なった製本で10部作成され、7部が現存している。この印譜集はその希少性とともに古代中国における文字と印章の発展を知る上での貴重な資料となる。
印章資料館が所蔵する十鐘山房印挙は全191巻からなり、10376種の印譜が収められている。展示しているのはその一部分だが、館内のデータベース閲覧システムでは、全てを閲覧することができる

十鐘山房印挙閲覧システム